

ゴミ拾い、スポーツ感覚で

家族や学生27チーム競う

戸田の河川敷

戸田市の荒川運動公園で15日、5人のチームが1時間でどれだけのゴミを拾えるかを競う「スポーツGOMI拾い大会」が開かれ、27チーム135人が参加した。わらび・とた青年会議所―徳光順一理事長(39)が主催した。日本スポーツGOMI拾い連盟の第85回大会に認定され、河口から秩父までのゴミ拾い活動を続けるNPO荒川クリーンエイド(本部・東京都江戸川区)の大会も兼ねた。(岸鉄夫)



珍しいカントウタンポポを見つけた古川れいあさんは家族でスポーツGOMI拾い大会に参加した―戸田市の荒川運動公園の荒川べり。

午前9時に競技開始。各チームは水辺や土手に散った。コンピューター関係の自営業の古川歩さん(42)は家族5人で参加。「コンセントの頭だけ切り落とした物とか変な物がたくさん固まってるぞ」と古川さんが言えは、妻の陽子さんは「怪しいごみたね」。「こいつてきれいなすれば、気持ち良くなるよ」と蔵北小5年生の長女れいあさん(10)。3年生の弟、大地君(8)や2年生の妹、みらいちゃん(7)も「もう時間がないよ」と一生懸命だった。

蔵市の中学生の硬式野球チーム「蔵シニア」の1年生チームの高橋健太君(12)、大友駿平君(12)は「楽しいです」。新藤幹太君は「スポーツだから面白い」。戸田市立上戸田

南保育園で一緒だった仲間のチームで参加した喜沢中3年生の柿崎みおさん(14)は「たくさん仕事したので、お弁当がおいしい」。

土手の反対側、各大学の艇庫が並ぶ戸田ボートコースから法政大学と明治大学の学生が参加した。「しつかり集めるよ」と、チームにけきを飛ばしていたのは法政大学ボート部の「ゴミ拾い隊」。2年生の田中優太朗さん(19)は

「絶対調です」。明治大学端艇部の4年生、猪川拳斗さん(21)は「荒川本流のボートからの眺めは素晴らしいけど、ゴミは思った以上。びっくります。これから清掃活動に参加したい」と話した。

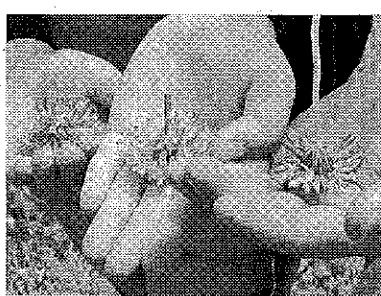
大会本部で計量の結果、優勝は法政大学ボート部、準優勝は少年硬式野球の蔵シニアチーム、3位は明治大学端艇部だった。

在来と外来の両種

タンポポ群落発見

大会本部の草原

スポーツGOMI拾い大会本部が置かれた草原にはタンポポが咲き乱れていたが、日本在来種のカントウタンポポと外来種のセイヨウタンポポの両方の群落がある珍しい場



古川れいあさんらきょうだいが花を手を持ってくれた。左2つはセイヨウタンポポ、右がカントウタンポポ―戸田市の荒川運動公園

所であることが分かった。

「花を裏返すと違いが分かる。花の根元を総苞(そうほう)うつついてみれば、ひらひらが分かれているのがセイヨウタンポポ。そうやってないのがカントウタンポポです」と発見した古川れいあさん。大会本部にいた県生態系保護協会戸田支部長、石本誠さん(62)は「まったくこの通り。」「こいつんなにたくさんカントウタンポポがあるなんて、大変貴重で戸田市の宝物だ」と話した。セイヨウタンポポは一年中花を咲かせるが、カントウタンポポは春先だけという。

れいあさん一家がいた水辺ではテトラポットの中からタヌキが出現。妹のみらいちゃん「タヌキを見たのは初めて」と喜んだ。